

# 今日も「一丁あがり」

第63話

次世代にロボストスを残せるか? の巻



高垣達郎

(たかがき・たつろう)  
1984年アメリカ生まれ、東京都大田区の町工場街で育つ。2011年に㈱ロボストスを創業し、農林水産業機械のワンオフ対応を軸に、独自のサービスを構築。A-1グランプリ2011グランプリを受賞。群馬県を拠点に、機械メーカー・ディーラー・農協・農業生産法人など、全国的に取引を拡大している。(㈱ロボストス・代表取締役社長)

皆さん、こんにちは！ 就寝時の歯ぎしりが強く歯が少しすり減ってしまいましたロボストス高垣でございます。さて、内定していたメンズにバックレられたり、採用活動がうまくいっていません。縁故採用を推進してきたものものそんな甘くなく、苦肉の策で100万円近く投資してリクナビとマインナビに掲載してみても、対象にしていた30歳前後の応募はゼロ。そんな状況で2月から社員が産休に入ります。周囲からの「ロボス

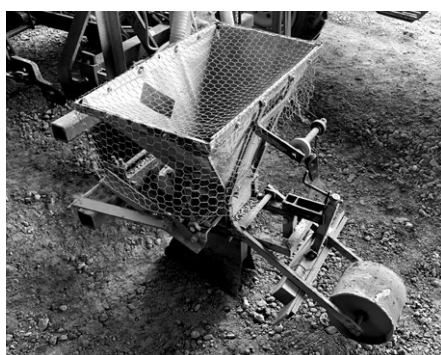


写真1：修復を依頼された肥料散布機。古い機械を重宝している生産者は、引退間近のベテランではなく、盤石な農業経営をされている方が多いのだ！



写真2：ボロボロに錆びて折れてしまったフレーム。この状態から寸法を丁寧に拾う

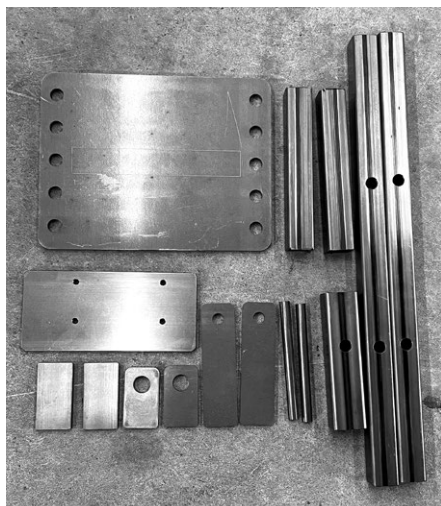


写真3：高垣が用意した部品。これらの単純な部品を溶接するだけだから、決して難しいことは皆さんにもご理解いただけるだろう



写真4：バッチリ複製完了！ 手前のブラケットだけは穴位置が微妙で少し手間がかかった

トスは面白い！」の声に自惚れていて、現実を知りました。もう既存の仕事を回すだけで精一杯……。社長として新しい仕事を創るべく休みなく働いても、行き止まりの道を全力疾走しているような苦しさ。目の前の依頼に熱くなつてしまつて、採用活動に真剣に取り組んでこなかったから、この結果を招いているんですね。次世代に仕事をつないでチームとして進化できなければ、自分の代で終わってしまうわけです。自分のモノづ

くりを追究したいけど、若い世代が技術を磨ける環境を作らなければいけない。仕事のやり方を変える時期が来ているんだと思います。

**頼れる技術者集団を夢みる**

ということ、今月はボロボロに錆びた古い肥料散布機のフレームを作ってみましょう。鋼材規格を理解していれば作れない理由が見当たらない、修復案件の教材といえるような案件です。丁寧に寸法を拾って、切断機で角パイプ

とフラットバーを切り、ボール盤で穴を開け、タップを立てる。仕上がりや手間を考慮して一部を板金屋さんでレーザー加工。溶接＆塗装で完成！基本的なモノづくりですけど、このフレームをパツと製品仕様で複製する会社が皆さんの近くにありませんか？ きっと数は少ないだろうし、あつたとしても減る一方でしょう。でも、この仕事は多くの現場で重宝され、社会から必要とされる幸せをたくさん感じさせてくれます。喜べる場面が多い仕事だからこそ、部品を見た瞬間に頭の中で仕上げられるような次世代の技術者を育てていきたいと思っています。諦めずに辛抱強く採用活動を続けていきましよう。ということ、今月も一丁あがり~~~~♪